

總持寺五院の成立と展開（四）

鶴見大学仏教文化研究所顧問 納富 常天

はじめに

『鶴見大学仏教文化研究所紀要』第十四号（平成二十一年四月八日発行）において『普威院住番牒』二冊、『普威院輪住誌』一冊、第十六号（平成二十三年三月三十一日発行）において『妙高庵輪住誌』一冊、第十七号（平成二十四年三月三十一日発行）において『洞川庵輪住誌』各一冊を翻刻し、それに対応する『總持寺住山記』を掲げ、その実情と問題点を考察した。ここではこれらに引き続き『伝法庵輪住帳』『伝法庵輪住誌』各一冊を翻刻し、あわせてこれに対応する『總持寺住山記』を掲げ、その実情と問題点を考察する。なお伝法庵の輪住関係で、『當山住番年譜記』『伝法庵住番年譜記』一冊がある。首尾一筆で後世記録されたもので、元和六（一六二〇）年から貞享二年（一八六五）まであり、表記法は異なるが、『伝法庵輪住帳』と重複している。わずかに誤記がみられるが、『伝法庵輪住帳』の欠落部分を補充できる貴重な資料である。しかしここでは参考とするとどめた。

（一）『伝法庵輪住帳』『伝法庵輪住誌』の翻刻とその問題点

伝法庵は大徹宗令（一三三三〜一四〇八）を開基とする總持寺五院の一つであるが、その輪住帳は折本装の二冊か

らなる。第一冊の『伝法庵輪住帳』は縦三四・〇糶、横一九・二糶で、前欠であるが元和六年（一六二〇）から文政六年（一八二三）まで、二百三年間の記録である。また第二冊の『伝法庵輪住誌』は縦三四・五糶、横一九・二糶で、文政七年から明治三年（一八七〇）まで四十七年間の記録である。両者は年代的には欠落なく二百五十年間継続しているが、表題も異なり表記法も違っている。また前者は野線がなく、後者は有野であることなどを考えると、あるいは本来異なった二種の輪住帳であったかも知れない。

なお『伝法庵輪住帳』は巻首から承応元年（一六五二）、寶祥寺玄國秀頓和尚まで一筆であり、その後も何人かの公文書記により書き継がれたようであるが、宝永六年（一七〇九）、出羽秋田最禪寺萬明覚法和尚以降、二人（正徳五年入院越中徳城寺厚擔恩酬、慶応二年入院三州宗源寺「面牆」泰禪）を除き落款あるいは花押がある。また落款は朱墨にわたっており、墨印の場合には（▲）を付した。

ここで『伝法庵輪住帳』と『伝法庵輪住誌』を翻刻し、それに対応する『總持寺住山記』を掲示し、その実情と問題点について考察する。

總持寺五院の成立と展開 (四)

竺山派	日山派	天巖派	日山派	春巖派	日山派	閻堂派	天巖派
寛永四丁卯年 八月十五日入院	寛永三丙寅年 八月十五日入院	〔寛永二乙丑年〕 八〔月十五日〕入院	寛永元甲子年 八月十五日入院	元和九癸亥年 八月十日〔百八日〕入院	元和八〔壬戌年〕 八月十五日〔百八日〕入院	元和七辛酉年 八月十五日入院	〔元和六庚申年〕 □□□□□□□□ □□□□□□□□ 〔八月十五日〕入院
丹波州畑 太寧寺 穆中文清和尚	出羽州最上 光禪寺 正山吞的和尚	遠江州榛原〔林〕 大興寺 琅國〔菴〕盛和尚	尾張州鳴海 瑞祥寺 徳巖俊道和尚	大隅州 瑞光寺 天安門藝和尚	出羽州最上 寶祥寺 青巖秀海和尚	參河州根羽 宗源寺 秀山殊芳和尚	〔遠州相良〕 □□□□□□□□ 〔大興寺〕信菴文達和尚

傳法庵輪住帳——前表紙 (直第卅五號 傳法庵輪住帳)

總持寺住山記

大徹派 三千八十世信菴文達和尚 大興寺	〔該当なし〕	大徹派 二千五百七十九世天安門藝和尚 〔寺名なし〕	大徹派 三千二百六十五世俊道和尚 瑞祥寺成直	〔該当なし〕	〔該当なし〕	〔該当なし〕
嗣法師一邦和尚 元和六癸卯年 受業師 菴翁和尚 生國尾州 人事 菊月九日入寺		受業 大隅和尚 大隅 慶長九年 尾州 八月吉 人事 關法 大隅和尚	受業 見道和尚 寛永二乙丑年 嗣法 海雄和尚 五月七日			

大成派 寛永五戊辰年
八月十五日入院

加州金澤
全巨寺北巖宗天和尚

(該当なし)

竺山派 寛永六己巳年
八月十五日入院

近江州大津
征龍寺秀巖龍田和尚
〔書〕

(該当なし)

普門派 寛永七庚午年
八月十五日入院

越中州滑川
徳城寺巒松源林和尚

(該当なし)

關住 寛永八年辛未年
八月十五日

永福寺俊玖

(該当なし)

天巖派 寛永九壬申年
八月十五日入院

摂津州池田
大廣寺徳峯祖隣和尚
(ママ)

(該当なし)

日山派 寛永十癸酉年
八月十五日入院

出羽州最上
龍門寺鸞峰存鸞和尚

(該当なし)

日山派 寛永十一甲戌年
八月十五日入院

出羽州米澤
照陽寺南溪天乘和尚

大徹派
三子一、三十四、十九世天乘和尚
受業大越和尚 寛永五年
嗣法克意和尚 二月廿五日
生國上野

關住 寛永十二乙亥年
八月十五日

松巖寺雄祝

(該当なし)

關住 寛永十三丙子年
八月十五日

永福寺俊玖

(該当なし)

大成派 寛永十四丁丑年
八月十五日入院

能州
覺皇院立山宋譽和尚

(該当なし)

總持寺五院の成立と展開 (四)

天巖派	天巖派	天巖派	天巖派	天巖派	天巖派	天巖派	天巖派	天巖派	天巖派
寬永十六己卯年 八月十五日	寬永十六己卯年 八月十五日	寬永十七庚辰年 八月十五日入院	寬永十八辛巳年 八月十五日	寬永十九壬午年 八月十五日	寬永二十癸未年 八月十五日	正保元甲申年 八月十五日	正保二乙酉年 八月十五日	正保三丙戌年 八月十五日入院	正保四丁亥年 八月十五日
遠江州相良 般若寺長國壽天和尚	武州江戸白泉寺 <small>名代</small> 永福寺俊玖	播磨州三木 慈眼寺海翁廣存和尚	松巖寺光吉	松巖寺光吉	松巖寺光吉	松巖寺光吉	千年寺俊玖	參河州篠原 永澤寺固心義堅和尚	永福寺俊玖
(該当なし)	(該当なし)	(該当なし)	(該当なし)	(該当なし)	(該当なし)	(該当なし)	(該当なし)	(該当なし)	(該当なし)

關住 慶安元戊子年
八月十五日

松巖寺光吉

關住 慶安二己丑年
八月十五日

千年寺俊玖

關住 慶安三庚寅年
八月十五日

永福寺俊玖

關住 慶安四辛卯年
八月十五日

松巖寺光吉

日山派 承應元壬辰年
八月十五日入院

出羽州最上
寶祥寺玄國秀頓和尚

天巖派 承應二癸巳年
八月十五日入院

越中州深谷
祇樹寺不山春達和尚

日山派 承應三甲午年
八月十五日入院

尾張鵜海
瑞祥寺雪岑自白和尚

竺山派 明曆元乙未年
八月十五日入院

江州大津
征龍寺覺海良圓和尚

天巖派 明曆二丙申年
八月十五日入院

遠江州横地
興岳寺勝山全尊和尚

關住 明曆三丁酉年
八月十五日

松巖寺光吉

(該当なし)

(該当なし)

(該当なし)

(該当なし)

大徹派
四千四百四十七世秀頓和尚
耕源寺

授号師秀佐和尚 出羽入
寛永十七庚辰四月三日
嗣法師同和尚 同人

(該当なし)

(該当なし)

大徹派
四千七百七十世良圓和尚
征龍寺

授号師秀岩和尚
寛永廿一甲申八月十四日
嗣法師同和尚 江州之住僧

(該当なし)

(該当なし)

總持寺五院の成立と展開 (四)

關住	源翁派	天巖派	天巖派	日山派	關住	關住	源翁派	關住	關住
寬文七丁未年 八月十五日	寬文六丙午年 八月十五日入院	寬文五乙巳年 八月十五日入院	寬文四甲辰年 八月十五日入院	寬文三癸卯年 八月十五日入院	寬文二壬子年 ^藏 八月十五日	寬文元辛丑年 八月十五日	万治三庚子年 八月十五日入院	万治二己亥年 八月十五日	万治元戊戌年 八月十五日
	下野郡那須 泉溪寺雪岩秀白和尚 (押紙)始テ	遠州 富洞院徳外嶺音和尚	摂津池田 大廣寺別宗壽傳和尚	羽州最上 光禪寺波心卓鯨和尚	永福寺春長	松巖寺光吉	奥州會津 示現寺計外純益和尚	千年寺俊玖	永福寺春長
千年寺俊玖									

(該当なし)	(該当なし)	(該当なし)	(該当なし)	(該当なし)	(該当なし)	(該当なし)	(該当なし)	(該当なし)	(該当なし)
		大徹派 六千三百廿三世嶺音和尚 万福寺	大徹派 六千三百廿九世壽傳和尚 崇禪寺	大徹派 六千三百廿九世壽傳和尚 津國之 明暦三丁酉年十月十日 昌法師大通和尚 住僧也 (7)			玄翁派大徹派取次 五千五十一世 純益和尚 示現寺		
		受号師麟別和尚 駿州之 明暦三丁酉年九月七日 嗣法師那天和尙 住僧也					受号師純益和尚 (同因之) 慶安元戊子卯月廿日 嗣法師止瑞和尚 住僧也		

關住
寬文八戊申年
八月十五日

羽州最上
龍門寺名代
松岩寺光吉

大成派
寬文九己酉年
八月十五日入院

加州金沢
全昌寺大中元空和尚

普門派
寬文十庚戌年
八月十五日入院

越中州滑川
徳城寺北明吟峯和尚

竺山派
寬文十一辛亥年
八月十五日入院

丹波州畑
太寧寺密心文察和尚

關住
寬文十二壬子年
八月十五日

永福寺丹嶺

天巖派
寬文十三癸丑年
八月十五日入院

遠州相良
大興寺太有文守和尚

間堂派
延宝二甲寅年
八月十五日入院

三州
宗源寺不耕泉作和尚

竺山派
延宝三乙卯年
八月十五日

播州
慈眼寺月間嶺円和尚

關住
延宝四丙辰年
八月十五日

松巖寺光吉

竺山派
延寶五丁巳年
八月十五日入院

播州赤穂
花嶽寺是天良扶和尚

(該当なし)

(該当なし)

(該当なし)

大徹派
八十八世
太寧寺

文察和尚
受業師十州和尚 丹波之
寬文十二癸酉曆霜月朔日
嗣法師念和尚 住僧也

(該当なし)

(該当なし)

(該当なし)

(該当なし)

(該当なし)

大徹派
八千七百九十八世
良扶和尚
受業師良吞和尚 播州之
延寶六曆五月十一日
嗣法師秀山和尚 住僧也

總持寺五院の成立と展開 (四)

竺山派	日山派	源翁派	日山派	源翁派	源翁派	關住	月江派	天巖派	源翁派
貞享四丁卯年 八月十五日入院	貞享三丙寅年 八月十五日入院	貞享二乙丑年 八月十五日入院	貞享元甲子年 八月十五日入院	天和三癸亥年 八月十五日入院	天和二壬戌年 八月十五日入院	天和元辛酉年 八月十五日	延宝八庚申年 八月十五日入院	延寶七己未年 八月十五日入院	延宝六戊午年 八月十五日入院
摂州大坂 禪林寺太虚惠海和尚	三州西尾瑞泉寺代住 康全寺方海元潮和尚	奥州會津 示現寺大川愚學和尚	羽州仙北大曲 大川寺外山壽心和尚	羽州 最禪寺空門祖心和尚	羽州庄内尾瀨畷 永泉寺峯山本雄和尚	千年寺玖堂	越中瀧脇 大川寺北岑岩鷲和尚	駿河州 宗乘寺朝谷韓暎和尚	伯州八幡郡 退休寺天叟雪心和尚

(該当なし)	大徹派 九千八百二世 元潮和尚	(該当なし)	(該当なし)	源翁派大徹派取次 最禪寺 八千五百七十六世空門和尚	女能派大徹取次 永泉寺 八千二百六十四世本雄和尚	(該当なし)	大徹派 大川寺 八千八百四十世岩鷲和尚	大徹派 宗乘寺 八千九百七十二世 韓暎和尚	太源派 慶聚院 六千二百九十八世雪心和尚
	受業師貞國和尚 三州 貞享三丙寅曆八月十二日 嗣法師淳海和尚 住僧也			受業師盛隣和尚 羽州之 延宝五丁巳曆九月九日 嗣法師大譽和尚 住僧也	受業師登堂和尚 羽州之 延寶一甲寅歲四月廿三日 嗣法師純益和尚 住僧也		受業師玄益和尚 越中之 延宝六戊午曆九月八日 嗣法師喚虎和尚 住僧也	受業師韓石和尚 駿州之 延寶七癸曆八月九日 嗣法師同和尚 住僧也	受業師南宗和尚 伯州之 明曆三丁酉年八月八日 嗣法師應薫和尚 住僧也

源翁派
元禄元戊辰年
八月十五日入院

羽州庄内大山
正法寺快翁茂悦和尚

關住
元禄二己巳年
八月十五日

千年寺通門

天岩派
元禄三庚午年
八月十五日入院

遠州相良 益寶說州和尚 於本山 汪化故
般若寺 悦嵩說泰和尚 後住登山 動住

間堂派
元禄四辛未年
八月十五日入院

三州篠原
永澤寺活山宋石和尚

日山派
元禄五壬申年
八月十五日入院

羽州最上
法祥寺巴陵頓察和尚

大成派
元禄六癸酉年
八月十五日入院

摂州大坂 (押紙二五十六年)
顯孝庵孝天雲忠和尚

日山派
元禄七甲戌年
八月十五日入院

奥州仙臺百手山
實相寺孤舟普雪和尚

天岩派
元禄八乙亥年
八月十五日入院

摂州池田
大廣寺玉環宗琢和尚 (押紙三度目 三十一年)

竺山派
元禄九丙子年
八月十五日入院

丹波州畑
太寧寺定水元湛和尚 (押紙二千五百年)

日山派
元禄十丁丑年
八月十五日入院

羽州山形
光禪寺東谷海禪和尚

大徹派
七千四百六十六世茂悦和尚
全洞寺
受旨師文悦和尚 羽州之
寛文七丁未曆三月廿九日
嗣法師玄堯和尚 住僧也

(該当なし)

大徹派
一万四百六十二世 說州和尚
般若寺
受旨師運教和尚 遠州之
元禄二庚午八月十日
嗣法師長國和尚 住僧也

大徹派
一万六百九世 宋石和尚
永澤寺
受業師瀨山和尚 三河州之
元禄四辛未曆八月十日
嗣法師松秀和尚 住僧也

大徹派
七千四百八世頓察和尚
法祥寺
受旨師秀頓和尚 羽州之
寛文六癸卯八月七日
嗣法師延家和尚 住僧也

(該当なし)

(該当なし)

(該当なし)

大徹派
一万二千四百二世 定水和尚
太寧寺
受業師月波和尚 丹波之
元禄九丙子曆八月十日
嗣法師大圓和尚 住僧也

大徹派
一万二千五百四十世 東谷和尚
光禪寺
受業師雲鳳和尚 羽州之
元禄十丁丑曆八月十日
嗣法師照海和尚 住僧也

總持寺五院の成立と展開 (四)

源翁派	元禄十一 戊寅年 八月十五日入院	下野州那須 泉溪寺「格吟」薰越和尚
關住	元禄十二 己卯年 八月十五日入院	羽州山形 龍門寺名代 松岩寺鐵船 永福寺天秀 千翠寺圓瑞 (押紙)三度目三十二年
天岩派	元禄十三 庚辰年 八月十五日入院	遠州 長興寺一 中周咄和尚
閻堂派	元禄十四 辛巳年 八月十五日入院	三河州根羽 宗源寺傑 州補獄和尚
竺山派	元禄十五 壬午年 八月十五日入院	播州 慈眼寺骨仙 禪髓和尚
天巖派	元禄十六 癸未年 八月十五日入院	加賀州金澤 全昌寺心宗 閑傳和尚
春巖派	「元禄十七 甲申年」(虫損) 八月十五日入院	「豫州宇津」 溪壽寺海門「香水」和尚
天巖派	寶永二 乙酉年 八月十五日入院	越中州深谷 祇樹寺桃源「(押紙)五十二年」 「惠旭」和尚
天巖派	寶永三 丙戌年 八月十五日入院	越中州眼目 立川寺大雄 北音和尚
玄翁派	寶永四 丁亥年 八月十五日入院	伯州八幡郡 退休寺室全 洞和尚 (押紙)三度目十九年

(該当なし)	大徹派 一万八千六百世 禪髓和尚 慈眼寺 受業師 大安和尚 播州之 元禄四辛未 曆六月十六日 嗣法師 月間和尚 住僧也
(該当なし)	大徹派 一万二千七百廿九世 海門和尚 同派 溪壽寺 受業師 宇淵和尚 豫州之 寶永元 年申八月九日 嗣法師 俊敏和尚 住僧也
(該当なし)	大徹派 九千八百六世 北音和尚 大雄寺 受業師 吟峯和尚 越中 貞享三 丙寅 曆八月十日 嗣法師 易龍和尚 住僧也
玄翁派 一万三千三百三十七世 全洞和尚 退休寺 受業師 龍尊和尚 伯州之 寶永四 丁亥 曆八月十日 嗣法師 應大和尚 住僧也	

竺山派 寶永五戊子年
八月十五日入院

撰津州中嶋
崇禎寺「天岑」門啓和尚

玄翁派 寶永六己丑年
八月十五日入院

出羽州秋田山田村
最禪寺萬明覺法和尚(▲) (※▲印は落款が墨印、無印は朱印、以下同じ)

天巖派 「寶永七庚卯年」
八月十五日入院

〔遠江州織地〕
興嶽寺石要舜轍 (※以下「和尚」なきものあり)

竺山派 正徳元辛卯年
八月十五日入院

江州大津
青龍寺鉄門靈樞(押紙「始テ」)

源翁派 正徳二壬辰歳
八月十五日入院

陸奥
示現寺山應潤澤(▲)

日山派 正徳三癸巳歳
八月十五日入院

三州堤瑞泉寺代住
瑞應寺大柱石梁(▲)

日山派 正徳四甲午歳
八月十五日入院

羽州最上
法祥寺瑞峰大奇(▲)

大徹派 正徳五乙未年
八月十五日入院

越中蒲川
徳城寺厚擔恩酬 (※落款・花押なし)

大徹派 享保元丙申歳
八月十五日入院

〔越中〕(□)大山
大川寺壽山棟昌和尚(▲)

日山派 享保二丁酉天
八月十五日入院

羽州米澤 水 (※署名上にある落款は当該の位置に*印以下同じ)
照陽寺密潜大意 (押紙「二度目八十八年」)

大徹派 一万三千四百九十二世 門啓和尚

受業師法素和尚 攝州之
寶永五戊子年八月四日
嗣法師長昌和尚 住僧也

源翁派 一万三千六百四十二世萬明和尚
満足寺

受業師萬徹和尚 羽州之
寶永六己丑歳四月廿一日
嗣法師快圓和尚 住僧也

〔該当なし〕

大徹派 一万二千九百二十七世鐵門和尚
同派青龍寺

受業師一寧和尚 江州之
寶永六己酉年八月廿六日
嗣法師直謙和尚 住僧也

〔該当なし〕

大徹派再公文 一万四千五百四十六世 大柱和尚

受業師智録和尚 参河之
正徳三癸巳年八月十二日
嗣法師玉淵和尚 住僧也

大徹派 一万七百七十八世瑞峯和尚
徳蔵院

受業師顯察和尚 羽州之
元禄五壬申曆八月十八日
嗣法師謙讓和尚 住僧也

大徹派 一万三千三百八十八世厚擔和尚
禪昌寺

受業師吟吟和尚 越中州之
寶永五戊子歳二月十日
嗣法師瑞室和尚 住僧也

大徹派 一万三千八百五世棟昌和尚
大川寺

受業師雷重和尚 羽州之
寶永七庚寅歳四月廿三日
嗣法師江天和和尚 住僧也

大徹派再公文 一万五千八百卅六世 大意和尚
照陽寺

受業師南鉄和尚 羽州之
享保二酉年八月廿日
嗣法師不孝和尚 住僧也

總持寺五院の成立と展開 (四)

大徹派	玄翁派	天巖派	日山派	玄翁派	竺山派	大徹派	天巖派	竺山派	闇堂派
享保十二丁未年 八月十五日入院	享保十一丙午年 八月十五日入院	享保十乙巳年 八月十五日入院	享保九甲辰年 八月十五日入院	享保八癸卯年 八月十五日入院	享保七壬寅年 八月十五日入院	享保六辛丑年 八月十五日入院	享保五庚子年 八月十五日入院	享保四己亥年 八月十五日入院	享保三戊戌年 八月十五日入院
越中國上瀧 大川寺佛州性海和尚 □ □ □	羽州庄内大山 正法寺方圓覺順和尚 □ □ □	摂州他田 大廣寺雲山宗祥和尚 □ □ □	羽州最上山形 光禪寺龍嶽素雲 □ □ □	羽州庄内尾路臥村 永泉寺雪岩湛盛 □ □ □	摂州大坂 禪林寺大道峯隆 □ □ □	奥州岩出山 實相寺元照珉山 □ □ □	駿州前嶋 宗乘寺覺洲義見 □ (押紙) 天興寺代住十年	摂州木代 朝川寺聖山光國和尚 □ □ □	三州藤原 永澤寺達宗賢良 □

(該当なし)

(該当なし)

大徹派
一万二千五百九世義見和尚
宗乘寺
受業師千海和尚 駿州之
元禄十八癸未閏四月九日
嗣法師益守和尚 住僧也

大徹派再公文
一万六千二百三十六世 珉山和尚
實相寺
受業師藤原和尚 奥州之
享保六辛丑年八月十一日
嗣法師藤原和尚 住僧也

大徹派
一萬五千四百三十一世大道和尚
禪林寺
受業師光天和尚 摂州之
享保元丙申年八月十二日
嗣法師法輪和尚 住僧也

(該当なし)

(該当なし)

(該当なし)

(該当なし)

(該当なし)

大徹派 享保十三戊申年八月十五日入院

奥羽仙臺花山城國寺 雲林慧照和尚

大成派 享保十四己酉年八月十五日入院

摂州大坂 顯孝菴 梅天疎英和尚

天巖派 享保十五庚戌年八月十五日入院

駿州 富洞院 聖巖觀禪和尚

竺山派 享保十六辛亥年八月十五日入院

丹波 太寧寺 丹山梅葵和尚

大徹派 享保十七壬子年八月十五日入院

羽州最上山形 龍門寺 大休一笑和尚

初開源翁派 享保十八癸丑年八月十五日入院

下野國那須烏山 泉溪寺 大英一道

玄翁派 享保十九甲寅年八月十五日入院

出羽村龜田仙北山田邑 最禪寺 癡丈古仙

源翁派 享保二十乙卯年八月十五日入院

奥州會津熱湯邑 示現寺 松堂本秀

大成派 享保二十丙辰年八月十五日入院

加州金澤 全昌寺 白篆珍山

日山派 元文二丁巳歲八月十五日入院

尾州植田瑞泉寺代住 全久寺 虎嶽匡威

大徹派 再公文 一万七千四百七十七世 雲林和尚 受業師孤丹和尚 奥州之城國寺 享保十三戊申年八月十一日 嗣法師孤丹和尚 住僧也

大徹派 一万六千七百六十六世 梅天和和尚 受業師慈天和和尚 摂州之瑞岑院 享保九申辰年八月十一日 嗣法師慈天和和尚 住僧也

(該当なし) 大徹派 一万五千九百八十四世 梅葵和尚 受業師定水和尚 丹州之大寧寺 享保三戌戌年閏十月三日 嗣法師藤淵和尚 住僧也

大徹派 一万八千一百六十世 大休和尚 受業師慧傳和尚 羽州之龍門寺 享保十七壬子年八月八日 嗣法師宗海和尚 住僧也

大徹派 一万八千三百一十一世 大英和尚 受業師觀照和尚 下野之再公文 泉溪寺 享保十八年癸丑年八月十日 嗣法師大英和尚 住僧也

(該当なし) 玄翁派 一万八千八百廿六世 松堂和尚 受業師梅峰和尚 奥州之再公文 示現寺 享保廿乙卯年八月九日 嗣法師木翁和尚 住僧也

(該当なし) 大徹派 一万七千四百四十五世 虎嶽和尚 受業師圓明和尚 尾州之全久寺 享保十二未年一月廿八日 嗣法師大柱和尚 住僧也

總持寺五院の成立と展開 (四)

大徹派	源翁派	日山派	春巖派	天巖派	竺山派	大徹派	日山派	日山派	玄翁派
元文三戊午年 八月十五貫入院	元文四己未年 八月十五日入院	元文五庚申歲 八月十五日入院	寛保元辛酉 八月十五貫入院	寛保二壬戌 八月十五日入院	寛保三癸亥 八月十五日入院	延享元甲子 八月十五日入院	延享二乙丑 八月十五日入院	延享三丙寅 八月十五日入院	延享四丁卯 八月十五日入院
三州加茂郡根羽村 宗源寺大容海寬 ○▲	奥州白川領中寺巴 常在院道癡魯康 * * *	羽州最上 法祥寺鐵鯨瑞昌 ▲ □	豫州字津 溪壽寺萬回一線 □	武州江戸淺草 白泉寺陰雄硯龍 □	播劔赤穂 華嶽寺覺湛元海 □	越中眼目 立川寺仙山厚謙 □	羽州秋田 大川寺活外雲龍 □	羽州米澤 昭陽寺步山大運 □	作州高田伯州退休寺代住 化生寺倍巖 □ □ □ □ 化生寺

(該当なし)

玄翁派
一万九千八百三十二世 道癡和尚
再公文 常在院
受業師環峰和尚 奥州之
元文四己未年八月四日
嗣法師碧鷲和尚 住僧也

(該当なし)

(該当なし)

大徹派
二萬五百六十九世硯龍和尚
再公文白泉寺
受業師顯熊和尚 武州之
享保二壬戌季八月九日
嗣法師好外和尚 住僧也

大徹派
二万七百八十九世 元海和尚
再公文華嶽寺
受業師泰嶽和尚 播州之
寛保三癸亥年八月十日
嗣法師益和和尚 住僧也

(該当なし)

(該当なし)

大徹派再公文
二万四千八十五世 步山和尚
照陽寺
受業師大容和尚 羽州之
延享三丙寅年八月九日
嗣法師大憲和尚 住僧也

玄翁派再公文
二万四千六百九十一世 倍巖和尚
化生寺
受業師惠受和尚 作州之
延享四丁卯年八月十日
嗣法師惠受和尚 住僧也

日山派 寛延元戊辰
八月十五日入院

羽州山形
光禪寺 獨雄魯句
△○

大徹派再公文
二万一千八百五十九世 獨雄和尚
光禪寺
受業師東谷和尚 羽州之
寛延元戊辰年八月廿日
嗣法師金林和尚 住僧也

大徹派 寛延二己巳天
八月十五日入院

奥州仙臺玉道郡岩出山本郷
實相寺 機輪關要
□ □

(該当なし)

間堂派 寛延三庚午天
八月十五日入院

三州篠原邑
永澤寺 天能興龍
□ □

大徹派再公文
二万一千三百二十二世 天能和尚
永澤寺
受業師觀生和尚 三州之
寛延三庚午年八月八日
嗣法師州桑和尚 住僧也

大徹派 寶曆元辛未年
八月十五日入院

尾州鳴海郡
瑞泉寺 吞舟透鱗
□ □

(該当なし)

竺山派 寶曆二壬申年
八月十五日入院

摂州中嶋
崇禪寺 提山道全
□ □

大徹派
二万一千八百十四世 提山和尚
高雲寺
受業師雲山和尚 摂州之
延享五戊辰年四月十三日
嗣法師月村和尚 住僧也

大徹派 寶曆三癸酉年
八月十五日入院

播州三木
慈眼寺 嶺應慧寂 (花押)

大徹派
一萬九千七百八十世 慧寂和尚
友松寺
受業師祖恭和尚 播州之
元文四己未年四月十日
嗣法師普光和尚 住僧也

玄翁派 寶曆四甲戌年
八月十五日入院

羽州庄内
永泉寺 海宗闍超
□ □

(該当なし)

竺山派 寶曆五乙亥年
八月十五日入院

摂州大坂
禪林寺 麟道祖瑞
○ □

(該当なし)

竺山派 寶曆六丙子歳
八月十五日入院

摂州木代
朝川寺 盤山玉轉 (花押)

大徹派
二萬六百二十三世 盤山和尚
朝川寺
受業師聖山和尚 摂州之
寛保三癸亥年二月八日
嗣法師聖山和尚 住僧也

玄翁派 宝曆七丁丑歳
八月十五日入院

羽州大山
正法寺 盧丹柏隆
□ □

(該当なし)

總持寺五院の成立と展開 (四)

天巖派	寶曆八戊寅 八月十五日入院	摂州池田 大廣寺 靈山義宏 (▲)
玄翁派	寶曆九(卯) 八月十五日入院	奥州會津 示現寺 松屋本梁 □ □ □
大徹派	寶曆十庚辰 八月十五日入院	出羽州山形 龍門寺 月丘探海 (▲)
普門派	宝曆十一辛巳年 八月十五日入院	越中州滑川 徳城寺 大愚厚本 □ □ □
大徹派	寶曆十二壬午歲 八月十五日入院	摂州大坂 顯孝菴 瑞天疎燈 □ □ □
竺山派	寶曆十三癸未歲 八月十五日入院	江州大津 青龍寺 圭州琢之 □ □ □
大徹派	明和元年申歲 八月十五日入院	遠州 大興寺 亨方定玄 ○
大徹派	明和乙酉歲 八月十五日入院	丹波州 太寧寺 吾宗興隆 □ □ □ (▲)(▲)
大徹派	明和丙戌歲 八月十五日入院	本州 金沢全昌寺番補住 覺皇院 圓巖大方 * * *
大徹派	明和丁亥 八月十五日入院	三州西尾但尾州瑞泉寺代住 康全寺 烏龍方眼 □ □ □

大徹派	二萬千六百五十五世 義瑛和尚 大廣寺	受業師 泰山和尚 摂州之 延享四年四月廿九日 嗣法師 月村和尚 住僧也
(該当なし)		
大徹派	一万九千六百五十二世 探海和尚 正覺寺	受業師 雲海和尚 羽州之 元文四年未年二月十六日 嗣法師 翠山和尚 住僧也
(該当なし)		
大徹派	二萬五百六十五世 瑞天和和尚 崇光院	受業師 梅天和和尚 攝州之 寛保二年七月廿一日 嗣法師 梅天和和尚 住僧也
大徹派	二萬二千八百十二世 圭州和尚 青龍寺	受業師 鏡山和尚 江州之 宝暦壬申年八月十日 嗣法師 鏡山和尚 住僧也
大徹派	二萬五千二百八十一世 亨方和尚 再公文大興寺	受業師 立玄和尚 遠州之 明和元年申年八月九日 嗣法師 立玄和尚 住僧也
大徹派	二萬千九百六十三世 興隆和尚 興福寺	受業師 基四和尚 摂州之 寛延己巳年三月十日 嗣法師 基四和尚 住僧也
大徹派	二萬五千四百八十八世 圓巖和尚 再公文覺皇院	受業師 玉巖和尚 能州之 明和乙酉年四月六日 嗣法師 富昌和尚 住僧也
大徹派	二萬四千八百五十七世 方眼和尚 康全寺	受業師 春舟和尚 尾州之 寶暦十二年五月二十七日 嗣法師 春舟和尚 住僧也

大徹派 明和五戊子
八月十五日入院

三州根羽
宗源寺大振喝用
□ □

大徹派 明和六年丑
八月十五日入院

羽州山田邑
最禪寺祖中大燈
□ (▲)

大徹派 明和七卯「寅」
八月十五日入院

奥州華山邑
城國寺金江祖鱗
□ □

源翁派 明和八辛卯
八月十五日入院

奥州白川鎮中寺邑
常在院洞鶴普泉
□ □ □

竺山派 明和九壬辰
八月十五日入院

播州赤穂城
花嶽寺道國慧光
□ □ □

源翁派 安永二歲次「乙巳」
八月十五日晋山

下野烏山
泉陽寺雪岩俊白
□ (▲) (▲)

大徹派 安永三歲甲午
八月十五日入院

羽州秋田大曲
大川寺旭山天和
□ (▲)

大徹派 安永四歲乙未
八月十五日入院

遠州中邑大興寺代任
長興寺大集現成
□ □

日山派 安永五歲丙申
八月十五日入院

羽劔米澤
照陽寺白芳俊恕
○ (▲)

玄翁派 安永六丁酉年
秋八月十五日入院

伯州六橋郡
退休寺大潮湖壑
□ (敬)
蜀住第七世直登

大徹派 二万五千八百五十二世喝用和尚
宗源寺
受業師喝牛和尚 參州之
明和四丁亥年三月十九日
嗣法師喝牛和尚 住僧也

(該当なし)

(該当なし)

女徹派 二万六千七百十一世洞鶴和尚
再公文常在院
受業師普傳和尚 奥州之
明和八辛卯年八月七日
嗣法師大梁和尚 住僧也

大徹派 二万六千八百七十一世道國和尚
再公文花嶽寺
受業師圓鑑和尚 播州之
明和九壬辰年八月九日
嗣法師洞頭和尚 住僧也

(該当なし)

(該当なし)

大徹派 二万七千五百二十六世現成和尚
再公文長興寺
受業師慈容和尚 遠州之
安永四乙未年八月四日
嗣法師慈容和尚 住僧也

大徹派 二万七千七百三世俊恕和尚
再公文照陽寺
受業師步山和尚 羽州之
安永五丙申年八月十一日
嗣法師斷溪和尚 住僧也

大徹派 二万七千八百九十二世大潮和尚
再公文退休寺
受業師大年和尚 伯州之
安永六丁酉年八月九日
嗣法師高塚和尚 住僧也

總持寺五院の成立と展開（四）

大徹派	天巖派	竺山派	玄翁派	玄翁派	大徹派	大徹派	大徹派	玄翁派
天明七年 八月十五日入院	天明六年 八月十五日入院	天明五年 八月十五日入院	天明四年 八月十五日入院	天明三年 八月十五日入院	天明二年 八月十五日入院	天明元年 八月十五日入院	安永九庚子年 八月十五日入院	安永七戊戌年 八月十五日入院
遠州横地大興寺代住 興嶽寺「禪巖」石定 ○▲	摂津池田 大麩寺越山「砥孝」 □▲	摂津山中嶋 崇禪寺「大方」無外 □	奥州會津 示現寺鶴秀卍年 □	羽劔庄内尾落伏村 永泉寺大蟲保宗 □	豫津州津 溪壽寺希胤道契 ○▲	三州篠原 永澤寺天苗大秀 □	羽州山形 光禪寺嵩霖古源 □▲	作劔真鶴郡 化生寺石橋通天 □
							奥州仙臺岩田山本郷 實相寺桂林恵株 □	

大徹派 二万九千三百九十四世 石定和尚 再公文興嶽寺	大徹派 二万八千一百七十九世 砥孝和尚 微笑庵	大徹派 二万八千一百五十五世 無外和尚 崇禪寺	大徹派 二万八千六百四十一世 鶴秀和尚 孝徳寺	玄翁派 二万八千八百九十九世 保宗和尚 再公文永泉寺	大徹派 二万八千三百六十五世 道契和尚 溪壽寺	大徹派 二万五千三百四十九世 大秀和尚 龍洞寺	大徹派 二万八千三百三十七世 桂林和尚 再公文實相寺	玄翁派 二萬四千八百五十八世 石橋和尚 化生寺
受業師 石嶺和尚 遠州之 天明七年八月七日 住僧也	受業師 礪山和尚 摂州之 安永八己亥年九月五日 住僧也 嗣法師 泰道和尚	受業師 堤山和尚 摂州之 安永八己亥年五月 住僧也 嗣法師 堤山和尚	受業師 秀禪和尚 奥州之 明和八年卯年三月十二日 住僧也 嗣法師 得曼和尚	受業師 如是和尚 羽州之 天明三年卯年八月四日 住僧也 嗣法師 道察和尚	受業師 金毛和尚 豫州之 安永九庚子年五月朔日 住僧也 嗣法師 天序和尚	受業師 大能和尚 參州之 明和元年申年九月十五日 住僧也 嗣法師 大能和尚	受業師 日敏和尚 奥州之 安永八己亥年八月八日 住僧也 嗣法師 岸山和尚	受業師 信藤和尚 作州之 寶曆十三午年六月六日 住僧也 嗣法師 信藤和尚

(該当なし)

大徹派 天明八戊申歲
八月十五日入院

龍門寺天養□

大徹派 受業師月良和尚 羽州之
二万九千五百二十八世 天養和尚 天明八戊申年八月五日
嗣法師則龍和尚 住僧也
再公文 龍門寺

大徹派 寬政元庚酉歲
八月十五日入院

播州三木 慈眼寺「大梁」禪志□

大徹派 受業師慧寂和尚 播州之
二万八千六百六十世禪志和尚 天明一壬寅年三月十六日
正入寺 嗣法師普禪和尚 住僧也

竺山派 寬政二戊歲
八月十五日入院

摂州大坂 禪林寺門榮「豊宗」(花押)

大徹派 受業師重徹和尚 摂州之
二万八千六百二十一世豊宗和尚 天明元辛丑年十月五日
禪林寺 嗣法師重徹和尚 住僧也

竺山派 寬政三亥歲
八月十五日入院

摂州木代 朝川寺「海山」萬榮□

(該当なし)

玄翁派 寬政四年
子八月十五日入院

羽劭大山 正法寺「洞水」眞龍□

玄翁派 受業師補船和尚 羽州之
三万千百三十一世眞龍和尚 寛政四壬子年八月八日
再公文正法寺 嗣法師讓山和尚 住僧也

大徹派 寬政五丑年
八月十五日入院

山内 大坂頼孝庵代住 覺皇院洞天覺仙□

(該当なし)

日山派 寬政六寅年
八月十五日入院

三州堤瑞泉寺代住 瑞應寺柳堂海紋□

大徹派再公文 受業師辨辨和尚 三州之
三万九千九百七十七世海紋和尚 寛政六甲寅年八月七日
瑞應寺 嗣法師本明和尚 住僧也

竺山派 寬政七卯年
八月十五日入院

丹波州畑 太寧寺隨關石順□

大徹派 受業師季順和尚 丹州之
二万八千四百二十一世石順和尚 安永九庚子年八月一日
観福寺 嗣法師大麟和尚 住僧也

大徹派 寬政八辰年
八月十五日入院

羽州山形 法祥寺「絃外」碩音□

大徹派再公文 受業師顯勝和尚 羽州之
三万二千六百九十七世碩音和尚 寛政八丙辰年八月四日
法祥寺 嗣法師碩顯和尚 住僧也

玄翁派 寬政九巳年
八月十五日入院

佐州徳和 東光寺「棟峰」祖梁□

太源派 受業師祖曉和尚 佐波之
二万七千十四世祖梁和尚 安永一癸巳年閏三月十七日
東光寺 嗣法師祖曉和尚 住僧也

總持寺五院の成立と展開 (四)

大徹派	大徹派	玄翁派	玄翁派	玄翁派	天巖派	普門派	大徹派	大徹派	大徹派
文化四丁卯年 八月十五日入院	文化三丙寅歲 八月十五日入院	文化二丙丑年 八月十五日入院	文化元子年 八月十五日入院	享和三癸亥歲 八月十五日入院 <small>(日入院)</small>	享和二己戌(マ) 八月十五日入院	享和元酉年 八月十五日入院	寬政十二申年 八月十五日入院	寬政十一未年 八月十五日入院	寬政十年午 八月十五日入院
越中上瀧 大川寺	羽州秋田 大川寺	伯州八幡 退休寺	羽州秋田 最禪寺別宗	奥州白川 常在院岱宗	摂州池田 大廣寺千輪	越中滑川 徳城寺	三州根羽 宗源寺	遠州相良大興寺代住 般若若	越中深谷 祇樹寺
〔通山〕 翁諱 □	〔越宗〕 観明 □ <small>代宗印</small>	〔閑浪〕 磨埽 (花押)	〔祖傳〕 (花押)	〔慧嶽〕 (花押)	〔光拳〕 (花押) <small>一山派花嶽寺代住也</small>	〔一枝〕 良桂 □ ^(▲)	〔大振〕 喝用 □	〔最時〕 宏観 □ □	〔瑞巖〕 俊榮 □ □

(該当なし)

大徹派
三万三千百十七世宏観和尚
般若寺
受業師宏道和尚 遠州之
寛政十戊午年八月十六日
嗣法師宏道和尚 住僧也

大徹派
二万五千八百五十二世喝用和尚
宗源寺
受業師喝呼和尚 参州之
明和四丁亥年三月十九日
嗣法師喝呼和尚 住僧也

大徹派
三万二千八百六十八世良桂和尚
全福寺
受業師原水和尚 越中之
寛政九丁巳年五月十七日
嗣法師長水和尚 住僧也

大徹派
三万二千八百八十一世千輪和尚
久親愿寺
受業師可存和尚 河州之
寛政五癸丑年三月十日
嗣法師逸能和尚 住僧也

(該当なし)

(該当なし)

玄翁派
三万四千八百二十五世 磨埽和尚
再公文 退休寺
受業師敬徳和尚 伯州之
寛政元乙丑年八月十三日
嗣法師鈍令和尚 住僧也

(該当なし)

大徹派
二万九千八百七十三世翁諱和尚
大川寺
受業師祖山和尚 越中之
寛政元己酉年五月朔日
嗣法師祖山和尚 住僧也

玄翁派
文化五戊辰年
八月十五日入院

作州勝山
化生寺
「芳山」石庭□

玄翁派
三万五千五百三世
石庭和尚
受業師石橋和尚
文化五戊辰年八月九日
嗣法師位吟和尚 住僧也

大徹派
文化七庚午^(六己巳)
八月十五日入院

奥羽仙臺岩出山
實相寺東巖
「維石」□

(該当なし)

玄翁派
文化七庚午
八月十五日入院

奥州金津熱塩^會
示現寺
「松獄」梁門□^(▲)

(該当なし)

天巖派
文化八辛未年
八月十五日入院

駿州前嶋
宗乘寺
「正外」義天□

大徹派
二万九千五百九十九世義天和尚
受業師燈外和尚 駿州之
天明五己巳年二月 十二日
嗣法師燈外和尚 住僧也

日山派
從文化九壬申年八月
到文化十癸酉年八月

羽州照陽寺
「佛宗」隆全○^(▲)

(該当なし)

大徹派
從文化十癸酉八月望
到同年甲戌八月望

參州永澤寺
「圓戒」玄成(花押)

大徹派
三万六千五百三十九世
玄成和尚
受業師義誦和尚 三州之
文化十癸酉年八月九日
嗣法師義誦和尚 住僧也

太源派
從文化十一戌年八月
到文化十二亥年八月

羽州山家
金勝寺大素
「慧元」□
羽州山形光禪寺補住

(該当なし)

玄翁派
從文化十二亥年八月
到文化十三丙子八月

羽州庄内
永泉寺
「置了」金獅□

(該当なし)

大徹派
從文化十三子八月
到文化十四丑八月

奥州花山邑
城國寺
「方山」萬孝□^(▲)

(該当なし)

玄翁派
從文化十四丁丑八月
到文政元戊寅八月

羽州
正法寺
「旭山」間梁□^(▲)

玄翁派
三万四千九百四十九世間梁和尚
受業師東明和尚 羽州之
文化三丙寅年三月四日
嗣法師性海和尚 住僧也

總持寺五院の成立と展開（四）

大徹派

從文政元戊寅八月
到同二年己卯八月

尾州植田 瑞泉寺代住
全久寺禪苗□

大巖派

從文政二己卯八月
到同三庚申八月

摂州池田
大廣寺「衡獄」道林□

大徹派

從文政三庚辰八月
到同四辛巳八月

羽州山形
龍門寺金聚□

大徹派

從文「政四辛」巳
八月到同五壬午八月

播州三木
慈眼寺「獲宗」泰如（花押）

竺山派

從文政五壬午八月
到同六癸未八月

摂州中嶋
崇禪寺「無學」懶文（花押）

天巖派

從文政六癸未八月
到同七申八月

駿州志木郡瀬戸新屋村
富洞院「源海」爲本（花押）

大徹派
三万四千二百七十九世禪苗和尚

全久寺

受業師大宅和尚 尾州之
享和三癸卯三月十四日
嗣法師禪苗和尚 住僧也

（該当なし）

（該当なし）

大徹派
三万七千九百四十四世泰如和尚

貝野寺

受業師鴨大和尚 播州之
文政三庚辰六月十三日
嗣法師熊掌和尚 住僧也

（該当なし）

大徹派
三万八千八百五十四世 爲本和尚

再公文富洞院

受業師成本和尚 駿州之
文政六癸未八月十一日
嗣法師戒來和尚 住僧也

傳法庵輪住誌

大成派 文政七申八月ヨリ
文政八酉八月マテ

摂州大坂
顯孝庵 「古覺」 寬量 □

竺山派 文政八酉八月ヨリ
文政九戌八月マテ

同州同處
禪林寺石養 「收牛」(牧心) □

通幻派 文政九戌八月ヨリ
文政十亥八月マテ

同州同所
龍海寺豊洲 □
朝川寺代勤也

太源派 文政十亥八月ヨリ
文政十一子八月マテ

羽州宮宿
福昌寺 「無學」 頓了 □
法祥寺代勤也

春巖派 文政十一子八月ヨリ
文政十二丑八月マテ

豫州大洲
溪壽寺 「曇華」 禪瑞 □

玄翁派 文政十二丑八月ヨリ
文政十三寅八月迄

(地名なし)
泉溪寺 「佛哲」 寒山 □

大徹派 天保元寅八月ヨリ
天保二卯八月迄

丹州篠山
太寧寺 「大興」 隆道 □

竺山派 天保二卯八月ヨリ
天保三辰八月迄

江州大澤
青龍寺俊峯 「徳忍」 (花押)

竺山派 天保三辰八月ヨリ
天保四巳八月迄

播州赤穂
花嶽寺鐵心 「道樹」 □

總持寺住山記

大徹派 三万六千七百六十八世寬量和尚
隨身庵

受業師大朝和尚 攝州之
文化十二甲戌年九月十四日
嗣法師義天和尚 住僧也

(該当なし)

(該当なし)

太源派 三万二千五百五十九世頓了和尚
福昌寺

受業師慧了和尚 越後之
寛政十三辛酉年正月二十日
嗣法師慧了和尚 住僧也

大徹派 三万七千九百三十八世禪瑞和尚
安樂寺

受業師天海和尚 豫州之
文政三庚辰年五月十六日
嗣法師提示和尚 住僧也

(該当なし)

大徹派 三万五千三百八十五世隆道和尚
禪昌寺

受業師石順和尚 (舟渡)
同州之
文化五戊辰年三月十七日
嗣法師順乘和尚 住僧也

大徹派 三万八千五百六十四世俊峯和尚
青龍寺

受業師俊榮和尚 江州之
文政六癸未年四月十一日
嗣法師俊榮和尚 住僧也

再竺山派 四万七百八十四世 鐵心和尚
花嶽寺

受業師鐵印和尚 攝州之
天保三辰年八月十日
嗣法師關庭和尚 住僧也

總持寺五院の成立と展開 (四)

大徹派	天保四巳八月ヨリ 天保五年八月迄	三州根羽 宗源寺	〔梵湖〕 喝音 □
玄翁派	天保五年八月ヨリ 天保六未八月迄	奥州會津 示現寺榮秀	〔智禪〕 □
天巖派	天保六未八月ヨリ 天保七申八月迄	江戸浅草 白泉寺	〔泰巖〕 智禪 □▲
玄翁派	天保七申八月ヨリ 天保八酉八月迄	奥州白川 常在院大鳳	〔祖活〕 □
大徹派	天保八酉八月ヨリ 天保九戌八月マテ	越中 立川寺	〔寂照〕 大光 □
玄翁派	天保九戌八月ヨリ 天保拾亥八月迄	伯州 退休寺	〔垣山〕 鐵磨 □▲ <small>代觀點洞</small>
玄翁派	天保十亥八月ヨリ 天保十一子八月迄	作州 化生寺	〔仙山〕 本光 □
大徹派	天保十一子八月ヨリ 天保十二丑八月迄	奥州仙臺 實相寺密嚴	〔東國〕 □
玄翁派	天保十二丑八月ヨリ 天保十三寅八月迄	羽州秋田山田村 最禪寺	〔定山〕 佛患 □
玄翁派	天保十三寅八月ヨリ 天保十四卯八月マテ	羽州庄内大山 正法寺	〔月巖〕 不傳 □

大徹派	三万五千六百七十七世 喝音和尙	受業師喝音和尙 三州之 文化六巳三月廿日 嗣法師喝音和尙 住僧也
大徹派	三万五千六百七十四世 榮秀和尙	受業師榮秀和尙 奥州之 文化六巳三月十九日 嗣法師大榮和尙 住僧也
大徹派	三万三千三百三十九世 智禪和尙	受業師峰天和尙 (地名なし) 天保六年八月六日 嗣法師同和尙 住僧也
大徹派	三万六千四百八十八世 大光和尙	受業師長水和尙 越中之 文化十癸酉年四月 王日 嗣法師宗西和尙 住僧也
玄翁派	四万七千七百四十八世 鐵磨和尙	受業師蘇宗和尙 伯州之 天保九年八月四日 嗣法師磨塲和尙 住僧也
玄翁派	四万九千九百四十九世 本光和尙	受業師逸守和尙 作州之 天保十年八月七日 嗣法師同 住僧也
再	大徹派	受業師祖銀和尙 羽州之 天保十一年八月九日 嗣法師一如和尙 住僧也
再	玄翁派	最禪寺

(該当なし)

日山派 天保十四卯八月ヨリ
同十五辰八月迄

羽州龜田
大川寺 [慧海] 淳教 □

大徹派 天保十五辰八月ヨリ
弘化二己八月迄

尾州有松
祇園寺 [信操] 永堅 □

大徹派 弘化二己八月ヨリ
弘化三年八月迄

羽州米澤
照陽寺 [峨山] 隆峯 □

大徹派 弘化三年八月ヨリ
弘化四未八月迄

三州篠原
永澤寺 [祥山] 惠連 ○

大徹派 弘化四未八月ヨリ
嘉永元年八月迄

遠州相良
大興寺 [無得] 寬量 □
代勤 [機山] 隆孝 □

天巖派 嘉永元戊申ヨリ
嘉永二己酉マテ

攝州池田
大廣寺道寛 [泰橋] □

玄翁派 嘉永二酉ヨリ
同三戌年迄

羽州庄内
永泉寺鉄翁 [諦山] □

大徹派 嘉永三戌年八月ヨリ
同四亥年八月迄

羽州山形
光禪寺 [道智] 穎山 (▲) □

天巖派 嘉永四亥八月ヨリ
同五子年八月マテ

越中深谷村
祇樹寺 [佛海] 孝順 □
(祇)

普門派 嘉永五子八月ヨリ
同六丑年八月マデ

越中清川
徳城寺 [良天] 長倫 □

文公再 明峰派 羽州之
四万 千八百十世 淳教和尚
天保十四年八月十日
嗣法師虎禪和尚 住僧也
大川寺

文公再 明峰派 尾州之
四万三千百三世 永堅和尚
天保十五年八月七日
嗣法師得船和尚 住僧也
祇園寺

(該当なし)

無編派 (奥州)
三万八千七百三十五世 惠連和尚
受業師露峰和尚 同外之
文化十甲申年三月十五日
永澤寺 嗣法師別山和尚 住僧也

大徹派 攝州之
三万六千七百六十八世 寬量和尚
受業師大輪和尚
文化十甲戌年十月十四日
隨身庵 嗣法師義天和和尚 住僧也

(該当なし)

文公再 玄翁派 羽州之
四万四千三百三十世 鐵翁和尚
受業師諸音和尚
嘉永二年八月七日
永泉寺 嗣法師 住僧也

大徹派 (同州)
三万七千六百九十九世 穎山和尚
受業師道俊和尚
文政二己卯年二月 十五日
慶松寺 嗣法師道俊和尚 住僧也

大徹派 越中之
四万一千七百七十九世 孝順和尚
受業師日山和尚
天保六年三月十一日
祇樹寺 嗣法師觀瑞和尚 住僧也

大徹派 越中之
四万三千六百三十六世 長倫和尚
受業師遠宗和尚
弘化三年九月八日
徳昌寺 嗣法師 住僧也

總持寺五院の成立と展開 (四)

大徹派	嘉永六丑八月ヨリ 同七寅年八月迄	羽州山形 龍門寺雄音□
大徹派	安政元從寅八月 同二卯中秋迄	越中上瀧邑 大川寺「天外」白龍□
大成派	安政二從卯八月 同三辰年中秋迄	攝劔大坂 顯孝庵壽天「魯暁」(花押)
大徹派	安政三從辰八月 同巳年八月迄	仙臺花山邑 城國寺「正覺」泰連□
竺山派	安政四巳八月ヨリ 同午年八月迄	攝州大坂 禪林寺「祖傳」貫道□
大徹派	安政五年從八月 至同曆六己未八月	攝州三木 慈眼寺雄道□
天巖派	安政六己未八月ヨリ 万延元庚申八月	遠州 長興寺「祖參」慶道□
玄翁派	万延元申八月ヨリ 文久元辛酉八月	會津 示現寺「豊元」秀國□
竺山派	文久元辛酉八月ヨリ 同曆二壬戌八月	摂津中嶋 崇禪寺古巖「道規」(花押)
春巖派	文久二壬戌八月ヨリ 同曆癸亥八月	豫州大洲 深壽寺佛海「眞禪」(花押)

大徹派	四万九百六十六世雄音和尚 清龍寺	受業師雄山和尚 羽州之 天保四巳年八月十四日 嗣法師雄山和尚 住僧也
大徹派	四万三千四百四十世白龍和尚 大川寺	受業師壽山和尚 越中之 弘化二年十一月廿二日 嗣法師同 住僧也
大徹派	四万五千五百八十三世魯暁和尚 隨身庵	受業師大宗和尚 攝州之 天保九戊午年正月晦日 嗣法師寬量和尚 住僧也
大徹派	四万三千六百二十五世泰連和尚 龍泉寺	受業師大英和尚 (羽州之) 弘化三年八月十九日 住僧也 嗣法師同 住僧也
(該当なし)		
(通幻派)	四万五千六百九十七世雄道和尚 慈眼寺	受業師活宗和尚 奥州之 安政一年四月八日 住僧也 嗣法師範宗和尚 住僧也
大徹派	四万四千二十六世慶道和尚 成願寺	受業師寛道和尚 同 (遠州之) 嘉永元年六月五日 住僧也 嗣法師吟成和尚 住僧也
玄翁派	四万三千五百五世秀國和尚 久山寺	受業師秀和尚 會津之 弘化三年四月十一日 住僧也 嗣法師全國和尚 住僧也
大徹派	四万七千四百二十六世古巖和尚 崇禪寺	受業師智馨和尚 摂州之 文久元年八月十日 住僧也 嗣法師石脚和尚 住僧也
大徹派	四万五千五百八世眞禪和尚 成福寺	受業師道表和尚 豫州之 嘉永七年六月八日 住僧也 嗣法師佛願和尚 住僧也

大徹派
文久二(三)癸亥八月ヨリ
元治元 子八月

〔同州最上〕
法祥寺〔天瑞〕智鳳□(▲)

竺山派
從元治元甲子八月
至慶應元乙丑八月

摂州能勢郡木代庄
朝川寺〔梅窓〕月葩□(▲)

同派(竺山)
從慶應元乙丑八月
至同曆丙寅八月

丹州多紀郡細色
大寧寺禪明〔悦道〕□

大徹派
從慶應二丙寅八月
至同曆丁卯八月退院

三州根羽
宗源寺〔面牆〕叅禪(※落款・花押なし)

竺山派
從慶應三丁卯八月
至同曆戊辰八月退院

播州赤穂
花岳寺〔恵日〕寛明〔花押〕

寶峰派
從明治元戊辰八月
至同曆巳八月退院

本州正院色
千光寺諱道〔花押〕

玄翁派
從明治二己巳八月
同曆庚午八月迄

羽後秋田
最禪寺〔恵海〕佛天□

(大徹派)
同四万三千六百二十二世天瑞和尚(羽)
弘化三年八月十九日 住僧也
同州之
長傳寺 嗣法師同

〔該当なし〕

大徹派
同四万六千三百二十一世禪明和尚
安政四年五月八日 住僧也
關春院 嗣法師同

〔該当なし〕

(大徹派)
同四万二千二百二十六世寛明和尚
天保六年四月一日 住僧也
受業師寛契和尚 兼州之
關法師同和尚 住僧也

〔該当なし〕

〔該当なし〕

『伝法庵輪住帳』は前に述べたように前欠であり、巻首も破損のため判然としないが、『總持寺住山記』や『当山住番年譜記』『伝法庵住番年譜記』から、元和六年八月十五日入院 遠州相良 大興寺信菴文達和尚」と推察することができる。これから『伝法庵輪住誌』の末尾明治二年(一八六九)八月入院した羽後秋田最禪寺「恵海」仏天まで、前述したように二百五十年にわたる輪住記録である。その間二十五年の欠住があり、伝法庵に輪住したのは二百二十五名であるが、三州宗源寺大振喝用(總持寺二五八五三世)は明和五年(一七六八)と寛政十二年(一八〇〇)に二回輪住している。

また伝法庵輪住者二百二十五名中、總持寺に出世したものは、現在判明している限りにおいて百三十二名 \parallel 五十八・七%を占め、未出世(未転衣)のものは九十三名 \parallel 四十一・三%である。このように未出世のものが九十三名(四十一・三%)にのぼっていることは無視できない。なお總持寺に出世転衣した百三十二名中、四十一名が再公文(永平寺などに出世転衣したものが、改めて總持寺に出世転衣しなおすこと、成直^{ながなおし})で、三十一%にのぼっていることも注目する必要がある。

いま總持寺に出世した百三十二名の總持寺出世時と、伝法庵輪住の日時との関係についてみると次のようになる。

(1) 總持寺出世後伝法庵輪住まで三十二年 \sim 三ヶ月 七十八名

三十年以上四名(最長三十三年五ヶ月、寛政十二年八月十五日輪住、總持寺二五八五二世「大振」喝用)

二十九年 \sim 二十年 十四名

十九年 \sim 十年 二十六名

九年 \sim 三ヶ月 三十四名

(2) 總持寺出世の翌日から十一日後までの伝法庵輪住者 五十名

一日(翌日) 二名

二日 四名

三日 七名

四日 四名

五日 五名

六日 十三名

七日 四名

八日 六名

九日 一名

十一日 四名

(3) 伝法庵輪住中に總持寺に出世転衣したもの 四名

輪住一ヶ月後 一名

輪住二ヶ月半後 一名

退院三ヶ月前 二名

次には伝法庵輪住について国別・寺院別・輪住回数・門派名その他をまとめ、便宜的に『曹洞宗大本山總持寺御直末・元輪番地寺院名鑑』に準じて列挙するとともに、その問題点を考察する。

武蔵

東京 白泉寺 3回

天巖派 1 2 3

※1の寛永十六年（一六三九）は永福寺（伝法庵門中）が代動している。

遠江

静岡 長興寺 3回

天岩派 1

大徹派 2

天巖派 3

※2の安永四年（一七七五）は「大興寺代住」の注記があり、大興寺の代住。

下野

栃木 泉溪寺 5回

源翁派 1 2 3 4

玄翁派 5

※1の寛文六年（一六六六）雪岩秀白和尚の右に押紙「始テ」とある。

駿河

静岡 宗乗寺 3回

天巖派 1 2 3

※2の享保五年（一七二〇）は押紙で「大興寺代住十年」とあり、大興寺の代住。

静岡 富洞院 3回

天巖派 1 2 3

静岡 大興寺 9回

天巖派 1 2 3 4

大徹派 5 6 7 8 9

※4の享保五年（一七二〇）は押紙に「大興寺代住十年」とあり、駿州宗乗寺代住。

6の安永四年（一七七五）は「大興寺代住」の注記があり、遠州長興寺代住。

7の天明七年（一七八七）は「大興寺代住」の注記があり、遠州興嶽寺代住。

8の寛政十一年（一七九九）は「大興寺代住」の注記があり、遠州般若寺代住。

9の弘化四年（一八四七）は「寛量代勤隆孝」の

注記があり、何等かの事情で、「無得」寛量に代り「機

山」隆孝が輪住している。

静岡 般若寺 3回

天巖派 1

天岩派 2

大徹派 3

※2の元禄三年（一六九〇）は割注で「益寶説州和

尚於本山迂化故悦堂説泰和尚後住登山勤仕」とある。

※3の寛政十一年（一七九九）は「大興寺代住」とあり、

遠州大興寺の代住。

静岡 興嶽寺 3回

天巖派 1 2

大徹派 3

※3の天明七年（一七八七）は「大興寺代住」の注

記があり、遠州大興寺の代住。

三河

愛知 全久寺 2回

日山派 1

大徹派 2

※1の元文二年（一七三七）、2の文政元年

（二八一八）はいずれも「瑞泉寺代住」の注記があ

り、尾州瑞泉寺の代住である。

愛知 瑞応寺 2回

日山派 1 2

※1の正徳三年（一七一三）、2の寛政六年

（二七九四）はいずれも「瑞泉寺代住」と注記があ

り、尾州瑞泉寺の代住である。

愛知 康全寺 2回

日山派 1

大徹派 2

※1の貞享三年（一六八六）に「瑞泉寺代住」の注

記があり、2の明和四年（一七六七）にも「但尾州

瑞泉寺代住」の注記があり、いずれも尾州瑞泉寺の

代住である。

愛知 永沢寺 7回

闇堂派 1 2 3 4

大徹派 5 6 7

長野 宗源寺 8回

※輪住帳は「三州加茂郡根羽村」とあるも『御直末・元輪番地寺院名鑑』では「長野県下伊那郡根羽村」とある。

闇堂派 1 2 3

大徹派 4 5 6 7 8

※5の明和五年（一七六八）、6の寛政十二年（一八〇〇）は大振喝用が二度輪住している。

尾州

愛知 瑞祥寺 2回

日山派 1 2

愛知 瑞泉寺 7回

日山派 1 2 3 6

大徹派 4 5 7

※1の貞享三年（一六八六）、5の明和四年（一七六七）は三州康全寺代住。2の正徳三年（一七二二）、6の寛政六年（一七九四）は三州瑞応寺代住。3の元文二年（一七三七）、7の文政元年（一八一八）はいずれ

も全入寺の項に「瑞泉寺代住」とあり、三州全久寺代住。

愛知 祇園寺 1回

大徹派 1

近江

滋賀 青龍寺 5回

笠山派 1 2 3 4 5

※1の寛永六年（一六二九）、2の明暦元年（一六五五）は寺名が征龍寺になっている。

3の正徳元年（一七一一）に押紙で「始テ」とあるが、その事情は不明。あるいはここから寺名が青龍寺になるからであろうか。

攝津

大阪 顕孝庵 6回

大成派 1 2 5 6

大徹派 3 4

※4の寛政五年（一七九三）は「大坂顕孝庵代住」の注記があり、能登（山内）覚皇院が代住している。

大阪 禅林寺 6回

竺山派 1 2 3 4 5 6

大阪 崇禅寺 5回

竺山派 1 2 3 4 5

大阪 大広寺 9回

天巖派 1 2 3 4 5 6 7 8 9

※3の元禄八年(一六九五)に押紙「三度目 三十一
年」がある。

7の享和二年(一八〇二)は「竺山派花嶽寺代住也」
の注記があり、竺山派播磨の花岳寺が代住している。

大阪 朝川寺 5回

竺山派 1 2 3 4

通幻派 5

※1の享保四年(一七一九)は寺名を初め朝泉寺と
記し、貼紙をして朝川寺とある。

5の文政九年(一八二六)は摂津龍海寺(妙高庵輪
番地)の項に「朝川寺代勤也」の注記があり、龍海
寺が代住。

大阪 龍海寺 1回

通幻派 1

※文政九年(一八二六)に「朝川寺代勤也」の注記
があり、摂津朝川寺の代住である。

丹波

兵庫 太寧寺 8回

竺山派 1 2 3 4 6 8

大徹派 5 7

※3の元禄九年(一六九六)に押紙「二十五年」がある。

播磨

兵庫 慈眼寺 7回

竺山派 1 2 3

大徹派 4 5 6 7

兵庫 花岳寺 6回

竺山派 1 2 3 4 5 6

※2の寛保三年(一七四三)のみ寺名を華岳寺とする。
4の享和二年(一八〇二)は大広寺の項に「竺山派

花嶽寺代住也」とあり、摂津大広寺の代住である。

美作

岡山 化生寺 4回

玄翁派 1 2 3 4

※1の延享四年（一七四七）は「伯州退休寺代住」の注記があり、伯耆退休寺の代住である。

大隅

春巖派 1 2 4 5

大徹派 3

鹿兒島 瑞光寺 1回

春巖派 1

伯耆

鳥取 退休寺 6回

源翁派 1

玄翁派 2 3 4 5 6

※2の宝永四年（一七〇七）に押紙で「二度目二十九年」とある。

3の延享四年（一七四七）は「伯州退休寺代住」の注記があり、化生寺代住。

4の安永六年（一七七七）大潮湖叡の条に「独住第七世直登」とあり、6の天保九年（一八三八）鉄磨の横に「代勤黙測」とある。

加賀

石川 全昌寺 5回

大成派 1 2 4

天巖派 3

大徹派 5

※5の明和三年（一七六六）は覚皇院（山内）が代住している。

能登

石川 覚皇院 3回

大成派 1

大徹派 2 3

伊豫

愛媛 溪寿寺 5回

※2の明和三年（一七六六）には「金沢全昌寺番補

住」の注記があり、加賀全昌寺の代住、3の寛政五年

（一七九三）は摂津顕孝庵の代住をしている。なお『御

直末・元輪番地寺院名鑑』にある記録のうち、天明二年

（一七八二）徳石、享和三年（一八〇三）仏後惟宗、文

政七年（一八二四）金貌（親か）、天保十四年（一八四三）智寂

元治元年（一八六四）卍庵竜苗とあるが、『伝法庵輪住帳』

『伝法庵輪住誌』によると、天明二年には伊予深寿寺希

胤道契、享和三年には奥州常在院岱宗慧嶽、文政七年に

は摂津顕孝庵上貞寛量、天保十四年には羽州大川寺慧海

淳教、元治元年には摂津朝川寺梅窓月皃が輪住している

から、『伝法庵輪住帳』『伝法庵輪住誌』による限り、何

等かの誤りと思われるが、今後の究明を俟ちたい。

石川 永福寺 1回

天巖派 1

※1の寛永十六年（一六三九）は武威白泉寺の代住である。

石川 千光寺 1回

実峰派 1

石川 松岩寺 1回

※寛文八年（一六六八）は羽州竜門寺の代住。なお

門派名の部分は欠住とある。

石川 松岩寺・永福寺・千寧寺 1回

※元禄十二年（一六九九）は羽州竜門寺の代住。な

お門派名の部分は欠住とある。

越中

富山 立川寺 3回

天巖派 1

大徹派 23

富山 徳城寺 6回

普門派 12456

大徹派 3

富山 祇樹寺 4回

天巖派 124

大徹派 3

※2の宝永二年（一七〇五）に押紙「五十二年」がある。

富山 大川寺 5回

月江派 1

大徹派 2 3 4 5

※1の延宝八年（一六八〇）入院した北空岩鷲は、『御直末・元輪番地寺院名鑑』では北岑延鷲となっている。

佐渡

新潟 東光寺 1回

玄翁派 1

陸奥

福島 常在院 4回

源翁派 1 2

玄翁派 3 4

福島 示現寺 9回

源翁派 1 2 3 4

玄翁派 5 6 7 8 9

※3の正徳二年（一七二二）入院した山應潤澤は、『御直末・元輪番地寺院名鑑』では山應瀧澤となっている。

宮城 実相寺 6回

日山派 1

大徹派 2 3 4 5 6

※4の寛延三年（一七四九）入院した機輪関要は、『御直末・元輪番地寺院名鑑』では入院年号が不明だが、たらしく（?）となっている。

宮城 城国寺 4回

大徹派 1 2 3 4

出羽

山形 龍門寺 8回

日山派 1

（空白） 2 3

大徹派 4 5 6 7 8

※2の寛文八年（一六六八）は松岩寺（山内）、3の元禄十二年（一六九九）は松岩寺・永福寺・千寧寺（共に山内）が名代として勤めており、門派名の部分は欠住とある。なお押紙「三度目三十二年」がある。

山形 法祥寺 8回

日山派 1 2 3 4 5

大徹派 6 8

太源派 7

※1の元和八年（一六二二）、2の承応元年（二六五二）は寺名が寶祥寺である。

※7の文政十年（二八二七）は、福昌寺の項に「法祥寺代勤也」の注記があり、羽州福昌寺が代勤している。

山形 光禪寺 8回

日山派 1 2 3 4 5

大徹派 6 8

太源派 7

※7の文化十一年（二八一四）は、金勝寺の項に「羽州山形光勝寺補住」の注記があり、羽州金勝寺が補住している。

山形 金勝寺 1回

太源派 1

※1の文化十一年（二八一四）は「羽州山形光禪寺補住」とあり、羽州光禪寺の補住である。

山形 福昌寺 1回

太源派 1

※1の文政十年（二八二七）は「法祥寺代勤也」とあり、羽州法祥寺の代勤である。

山形 照陽寺 6回

日山派 1 2 3 4 5

大徹派 6

※2の享保二年（二七二七）に押紙で「度目八十八年」とある。

山形 正法寺 6回

源翁派 1

玄翁派 2 3 4 5 6

山形 永泉寺 6回

源翁派 1

玄翁派 2 3 4 5 6

秋田 最禪寺 7回

源翁派 1

玄翁派 2 3 5 6 7

大徹派 4

※4明和六年（二七六九）の派名大徹派の右に「玄翁開山」の注記がある。

秋田 大川寺 5回

日山派 1 2 5

大徹派 3 4

以上国別・寺院別・輪住回数（含代住）・門派名などを揭示したが、国別については武蔵・下野・駿河・遠江・三河・尾張・近江・摂津・丹波・播磨・美作・伯耆・伊予・大隅・加賀・能登・越中・佐渡・陸奥・出羽の二十ヶ国にわたっている。

また輪住寺院については、『總持寺史』^①に示されている伝法庵輪番地寺院四十九ヶ寺のすべてと、輪番地寺院以外の寺院である尾張鳴海瑞祥寺、^②大隅瑞光寺、能登千光寺の三ヶ寺である。

輪住回数は後述するとして、二百二十五名の門派名は四十六名の源（玄）能（心昭）派、二名の太源（宗真）派、各一名の通幻（寂靈）派・実峰（良秀）派を除く百七十五名は、大徹派とその派下である。四十六名の源翁派は下野泉溪寺、伯州退休寺代住の美作化生寺、伯耆退休寺、佐渡東光寺、陸奥常在院・示現寺、羽州正法寺・永泉寺・最禪寺の九ヶ寺から輪住しているが、太源派の二名は文化十一年（一八一四）、羽州山形光禪寺補充の羽州金勝寺大素慧元、および文政十年（一八二七）、羽州山形法祥寺代勤の羽州福昌寺無学頓了である。また通幻派一名は文政九年（一八二六）、摂州朝川寺代勤の摂州龍海寺豊洲であり、実峰派の一名は明治元年（一八六八）、能登千光寺諦道である。これらを除く百七十五名の大徹派とその派下については大徹（宗令）派五十七名、竺山（得仙）派三十四名、天巖（宗越）派三十二名、日山（良旭）派二十六名、大成（宗林）派八名、闇堂（良闇）派七名、春巖（祖東）派五名、普門（元三）派五名、月江（応雲）派一名となっている。

次に輪住回数（代住を含む）であるが、最も多く輪住したのは九回の遠江大興寺、摂津大広寺、陸奥示現寺の三ヶ寺であるが、このうち示現寺のみはすべて自ら輪住している。また大広寺は一回（享和二年播磨花岳寺^③竺山派）、大興寺は四回（享保五年駿河宗乗寺、安永四年遠江長興寺・天明七年興嶽寺・寛政十一年般若寺）代住させている。また八回輪住したのは三河宗源寺、丹波大寧寺、出羽竜門寺・法祥寺・光禪寺の五ヶ寺であるが、宗源寺と大寧寺は自ら輪住しているが、法祥寺は一回（文政十年出羽福昌寺）、光禪寺は一回（文化十一年出羽金勝寺）、竜門寺は二

回（寛文八年山内塔頭松岩寺、元禄十二年山内塔頭松岩寺・永福寺・千寧寺）代住させている。

次に七回は三河永沢寺、尾張瑞泉寺、播磨慈眼寺、出羽最禪寺の四ヶ寺であるが、瑞泉寺以外はすべて自ら輪住している。しかし瑞泉寺は六回（貞享三年・明和四年三河康全寺、正徳三年・寛政六年三州瑞応寺、元文二年・文政元年三州全久寺に各二回）代住させ、自ら輪住したのは宝暦元年の一回のみである。

また六回は摂津顕孝庵・禅林寺、播磨花岳寺、伯耆退休寺、越中徳城寺、陸奥実相寺、出羽照陽寺・正法寺・永泉寺の九ヶ寺であるが、禅林寺・徳城寺・実相寺・照陽寺・正法寺・永泉寺の六ヶ寺はすべて自ら輪住しているが、顕孝庵は一回（寛政五年能登山内塔頭覚皇院）、退休寺も一回（延享四年伯耆化生寺）代住させている。しかし花岳寺は摂津大広寺の代住をしている。

次に五回は下野泉溪寺、近江青竜寺、摂津崇禅寺・朝川寺、伊予溪寿寺、加賀全昌寺、越中大川寺、出羽大川寺の八ヶ寺であるが、朝川寺・全昌寺を除き自らすべて輪住している。しかし朝川寺は一回（文政九年摂津竜海寺）、全昌寺も一回（明和三年能登山内塔頭覚皇院）代住させている。

また四回は美作化生寺、越中祇樹寺、陸奥常在院・城国寺の四ヶ寺であるが、化生寺を除く三ヶ寺はすべて自ら輪住している。化生寺は一回（延享四年へ一七四六）伯耆退休寺の代住をしている。

次に三回は武蔵白泉寺、駿河宗乗寺・富洞院、遠江長興寺・般若寺・興嶽寺、能登覚皇院、越中立川寺の八ヶ寺であるが、富洞院・立川寺はすべて自ら輪住している。白泉寺は一回（寛永十六年へ一六三九）能登山内塔頭永福寺に代住させているが、覚皇院は二回（明和三年へ一七六六）加賀全昌寺、寛政五年へ一七九三）摂津顕孝庵）代住している。また宗乗寺（享保五年へ一七二〇）・長興寺（安永四年へ一七七五）・般若寺（寛政四年へ一七九九）・興嶽寺（天明七年へ一七八七）はいずれも遠江大興寺の代住として輪住している。

また二回は三河全久寺・瑞応寺・康全寺、尾張瑞祥寺、能登永福寺・松岩寺（共に山内塔頭）の六ヶ寺であるが、

瑞祥寺のみすべて自ら輪住している。しかし全久寺二回（元文二年へ一七三七）、文政元年へ一八一八）、瑞応寺二回（正徳三年へ一七一三）、寛政六年へ一七九四）、康全寺二回（貞享三年へ一六八六）、明和四年（一七六七）はいずれもすべて三河瑞泉寺の代住として輪住している。また能登永福寺は寛永十六年（一六三九）、武蔵白泉寺名代、天巖派として輪住しているが、能登松岩寺は寛文八年（一六八八）、羽州竜門寺名代として、元禄十二年（一六九九）には、同じく羽州竜門寺名代として、能登永福寺・千寧寺（共に山内塔頭）と共に輪住しているが、いずれも門派名の部分は欠住となっている。

最後に一回であるが、尾張祇園寺、摂津竜海寺、大隅瑞光寺、能登千光寺・千寧寺、佐渡東光寺、出羽金勝寺・福昌寺の八ヶ寺である。祇園寺・瑞光寺・千光寺・東光寺は自ら輪住している。しかし龍海寺は文政九年（一八二六）摂津朝川寺、金勝寺は文化十一年（二八一四）出羽光禪寺、福昌寺は文政十年（二八二七）出羽法祥寺の代住として輪住している。また千寧寺（山内塔頭）は前にも触れた通り、元禄十二年（一六九九）、出羽竜門寺の名代として松岩寺・永福寺と共に輪住しており、門派名の部分は欠住となっている。

【注記】

- (1) 栗山泰音『總持寺史』五四五頁参照。
- (2) 尾張鳴海瑞泉寺と地名が同じであるからなんらかの関係があるかも知れない。